

米国のリンゴ生産量は、米国農務省の発表によると、2015〜16年の予測値は、456万ト

ン州で、全米の約半分を生産している。次いで、東部のニューヨーク州、ミシガン州と続く。1999年にワシントン州を訪れたことがあ

# 5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

25

していて、ほぼ横ばい傾向にある。

主な生産地は、比較的寒冷な北部の州に集中している。最も生産量が多いのは、野球のシアトル

・マリナーズですっかりおなじみの西北部のワシ

ン州で、全米の約半分を生産している。次いで、東部のニューヨーク州、ミシガン州と続く。

1999年にワシントン州を訪れたことがあ

る。米国のリンゴは、96年に日本向け輸出が解禁

されたが、当初は「レッドリシヤス」と「ゴールドデンデリシヤス」で、

日本ではすでに人気のなかった品種だったため、2年間で撤退している。

その後、99年になって「ふじ」など5品種の追加解

## 大規模な販促活動展開

禁にこぎつけ、日本向け輸出の巻き返しを図ることになった。ワシントン

日本市場の主力品種「ふじ」に変更したものの、くん蒸処理など厳しい検疫措置で、思つような品質を維持できず、2001

州訪問はそうした時期の「敵情視察」だった。日本向け輸出品種を、

年を最後に日本向け輸出は中断し、これまでのところ再開の気配はない。調査の中で収穫もあつた。ワシントン州と本県



は、リンゴ生産量が国の過半を占めるという点で共通している。同州で消費宣伝に大きな力を持っていたのが、「ワシントンりんご委員会」だ。当時、りんご1箱（19キ）当たり47円を徴収し、総額約40億円の予算で、全

米と輸出国で販売促進活動を展開していた。

青森からアジア地域に売り込みに行くと、必ず「ワシントンりんご委員会のようにやれば」とアドバイスされた。生産規模から試算すると、本県の同組織である青森県りんご対策協議会は10億円（現状3億円）の予算規模が必要だった。

ワシントンりんご委員会は、貿易業者から供出金徴収差し止めの訴訟に負けて、宣伝規模を縮小したが、当時の取り組みは本県の宣伝戦略に大きな刺激を与え、本県の輸出促進に大いに参考になっている。

（県りんご輸出協会事務局長 深澤守）

## ワシントンりんご委員会

米国ワシントン州のリンゴ園での収穫の様子（米国の業界誌「Good Fruit Grower」2016年8月号から）